

講演

『海を取り巻く協同組合』

ーなぜ漁業（一次産業）は協同組合になったのかー

（第119回月例会）

大阪湾が「茅渚（ちぬ）の海」といわれる所以は、黒鯛が多く生息していたことに由来するという説があり、来年11月には「第45回全国豊かな海づくり大会～魚庭（なにわ）の海おさか大会～」が開催されます。

2023漁業センサス（統計）によると、大阪府には785人の漁業者、731隻の漁船が24の漁業協同組合に所属し、日々の食卓に供されている魚、海老、蟹、貝、海草等を漁獲、養殖しています。この漁業協同組合とはどのような経緯を経て現状に至ったのか？

今回は、前大阪府漁業協同組合連合会専務理事を講師に迎えて講演していただきます。

■講師

関西ねじ協同組合 理事兼事務局長 児玉 光剛 （こだま みつよし） 氏
（前大阪府漁業協同組合連合会 専務理事）

■開催日時

令和7年7月30日（水）15:00～16:00頃まで

■開催場所

神戸市中央区東町115番地 神戸市中央区文化センター 10階 1001-1002会議室



入場無料
(定員50名)

■主催

公益社団法人 神戸海難防止研究会（担当：渡川又は藤原）
電話 078（332）2035